

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 6 月 23 日

新潟市長 殿

提出者

住所 〒950-2125
新潟市西区中野小屋1631番地氏名 公益財団法人 新潟ミートプラント
理事長 石井 哲也

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

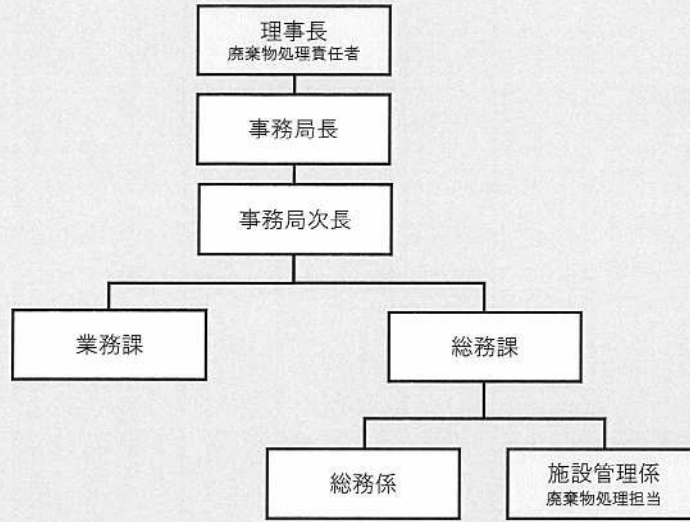
電話番号 (025) 261-2100

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	新潟市食肉センター
事業場の所在地	〒950-2125 新潟市西区中野小屋1631番地
計画期間	令和 5 年 4 月 1 日 から 令和 6 年 3 月 31 日 まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	その他サービス業・と畜場 [9521]
② 事業の規模	令和 4 年度実績 (豚換算処理頭数) 191,314頭
③ 従業員数	47名 (常勤役員含む、令和5年4月1日現在)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状		【前年度 (4 年度) 実績】							
産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃プラスチック	金属くず	ガラスくず	動物系固形不要物			
排出量	18.65 t	25,764.42 t	0.36 t	0.06 t	0.08 t	230.32 t			
産業廃棄物の種類									
排出量									
(これまでに実施した取組)									
【汚泥】放流水の水質を最優先とした汚泥の引き抜き等を行い、脱水設備の適切な運転管理にも努めた。									
【動植物性残さ】生体積載時に著しい敷料の積載や、過剰の給餌を自粛する様、関係者に協力要請した。									
【廃プラスチック】多量に発生する廃棄手袋など新型コロナウイルス感染対策に適した分別化を図ると共に、物品納入においては過剰包装の抑制を依頼した。									
② 計画		【目標】							
産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃プラスチック	金属くず	ガラスくず	動物系固形不要物			
排出量	19.00 t	25,000.00 t	0.40 t	0.10 t	0.10 t	230.00 t			
産業廃棄物の種類									
排出量									
(今後実施する予定の計画)									
【動物系固形不要物】厚労省より通達された「BSE特措法」に基づき運用している為、排出抑制より適切な管理が優先である。									
【汚泥】引き続き、汚泥の引き抜き等、廃水処理施設の管理適正化を図り、状況に応じて見直しを行う。									
【動物系固形不要物】引き続き、過度の敷料積載及び過剰な給餌の自粛について関係者に理解を求める。									
【金属くず、廃プラスチック】引き続き、世の中の情勢に適した分別化や過剰包装を抑制し減量化を促進する。									

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 工程毎に発生した廃棄物をそれぞれ適切に管理、保管する。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 引き続き、工程毎に発生した廃棄物をそれぞれ適切に管理、保管する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現 状	【前年度（4年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃プラスチック	金属くず	ガラスくず	動物系固形不要物		
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t		
産業廃棄物の種類									
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量									
(これまでに実施した取組)									
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組むことが困難 国内におけるBSE問題は一段落したものの「牛由来の原料」の安全宣言を国が示さなければ、燃え殻・汚泥・動物系固形不要物のなどの再生は利用者から理解が得られない状況となっている。									
② 計 画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃プラスチック	金属くず	ガラスくず	動物系固形不要物		
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t		
産業廃棄物の種類									
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量									
(今後実施する予定の計画)									
<ul style="list-style-type: none"> ・上記のとおり、「牛由来の原料」の安全性を国が示さなければ、燃え殻・汚泥・動物系固形不要物のなどの再生利用は難しい状況であり、今後も国の動向に注視したい。 									

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現 状	【前年度（4年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃プラスチック	金属くず	ガラスくず	動物系固形不要物		
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t		
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	16.11 t	24,670.32 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	54.17 t		
産業廃棄物の種類									
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量									
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量									
(これまでに実施した取組)									
<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所では熱回収が可能な施設、設備は存在しない。 ・【燃え殻】完全燃焼となる様、廃棄物の適正な炉内の収納及び、燃焼時の温度管理に留意した。 ・【汚泥、動物系固形不要物】脱水及び、水切りの効率を向上する管理・操作に留意した。 									
② 計 画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃プラスチック	金属くず	ガラスくず	動物系固形不要物		
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t		
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	14.00 t	23,920.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	60.00 t		
産業廃棄物の種類									
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量									
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量									
(今後実施する予定の計画)									
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度における設備投資（熱回収が可能な施設、設備設置）はありません。 ・平成27年度より民間と畜場（しばたパッカーズ）の本格稼働に伴い、生体の取扱量が減少傾向となる見込みであることから、汚泥・動物系固形不要物の取り扱量は昨年度とほぼ同等、若しくは若干減少することが考えられるが、状況に適した運転管理に努める。 ・汚泥脱水機の効率化を図るため、汚泥性状を把握することや凝集剤の選定試験など必要に応じて実施する。 									

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現 状	【前年度（4年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃プラスチック	金属くず	ガラスくず	動物系固形不要物		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t		
	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)									
・特にない。									
② 計 画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃プラスチック	金属くず	ガラスくず	動物系固形不要物		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t		
	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)									
・今後も自己埋立処分、並びに海洋投棄等は行わない。									

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現 状	【前年度（4年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃プラスチック	金属くず	ガラスくず	動物系固形不要物		
	全処理委託量	2.54 t	1,094.10 t	0.36 t	0.06 t	0.08 t	176.15 t		
	優良認定処理業者への処理委託量	2.54 t	174.41 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t		
	再生利用業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t		
	認定熱回収業者への処理委託料	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t		
	産業廃棄物の種類								
	全処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託料	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)									
・発生した廃棄物の種別に適する請負先に処理を委託した。 又、委託処理する廃棄物の組成等を分析し、最新の情報を委託先に提供した。									

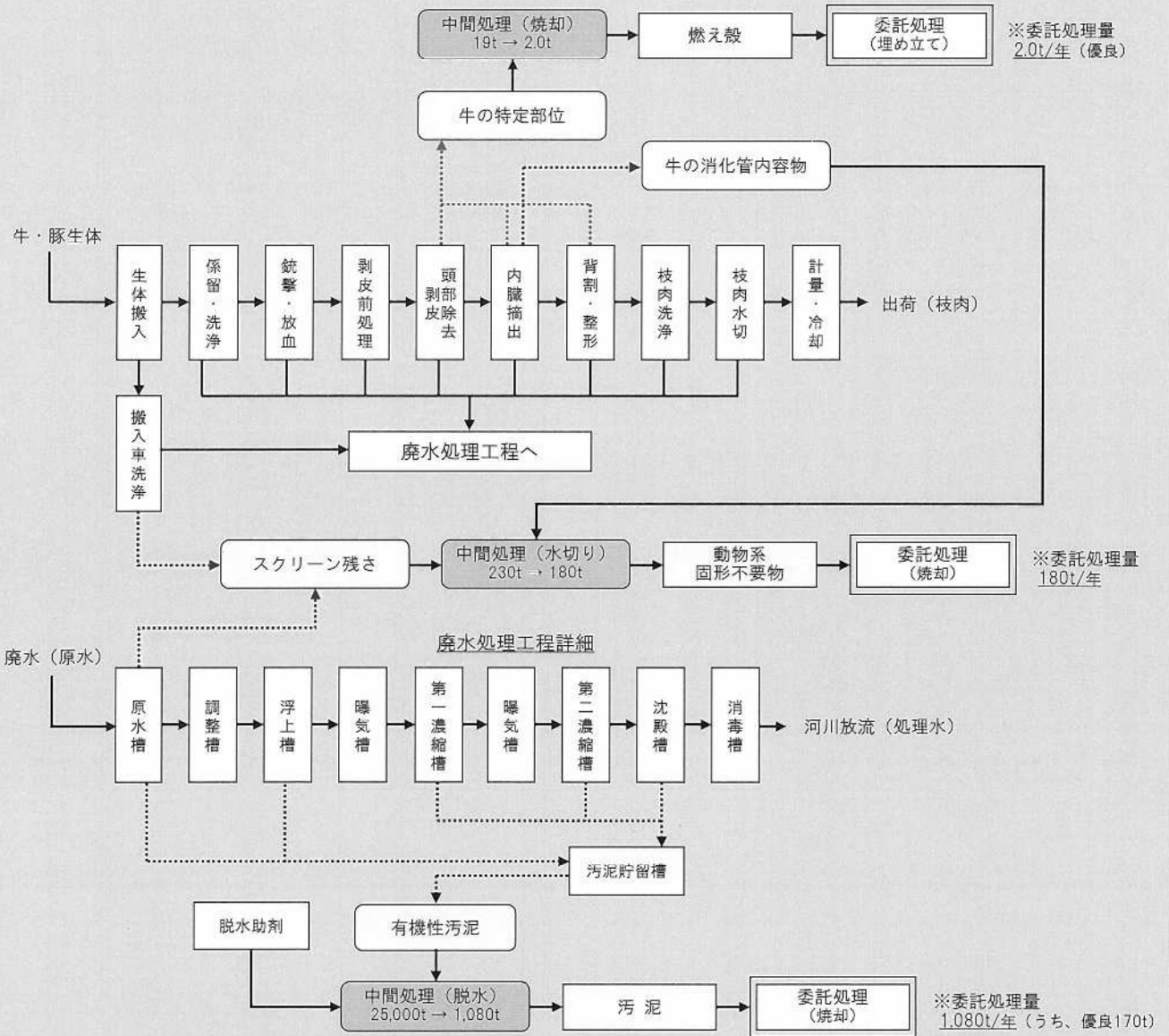
① 計 画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	燃え殻	汚泥	廃プラスチック	金属くず	ガラスくず	動物系固形不要物			
	全処理委託量	2.00 t	1,100.00 t	1.00 t	0.10 t	0.10 t	180.00 t			
	優良認定処理業者への処理委託量	2.00 t	170.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t			
	再生利用業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t			
	認定熱回収業者への処理委託料	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t			
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t			
	産業廃棄物の種類									
	全処理委託量									
	優良認定処理業者への処理委託量									
	再生利用業者への処理委託量									
	認定熱回収業者への処理委託料									
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									
	(今後実施する予定の取組)									
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、発生した廃棄物の種別に適する請負先に処理を委託すると共に、現地確認を定期的に行い処分の適格性を確認する。 委託処理する廃棄物の組成等を分析し、最新の情報を委託先に提供する。 									
※事務処理欄										

備考

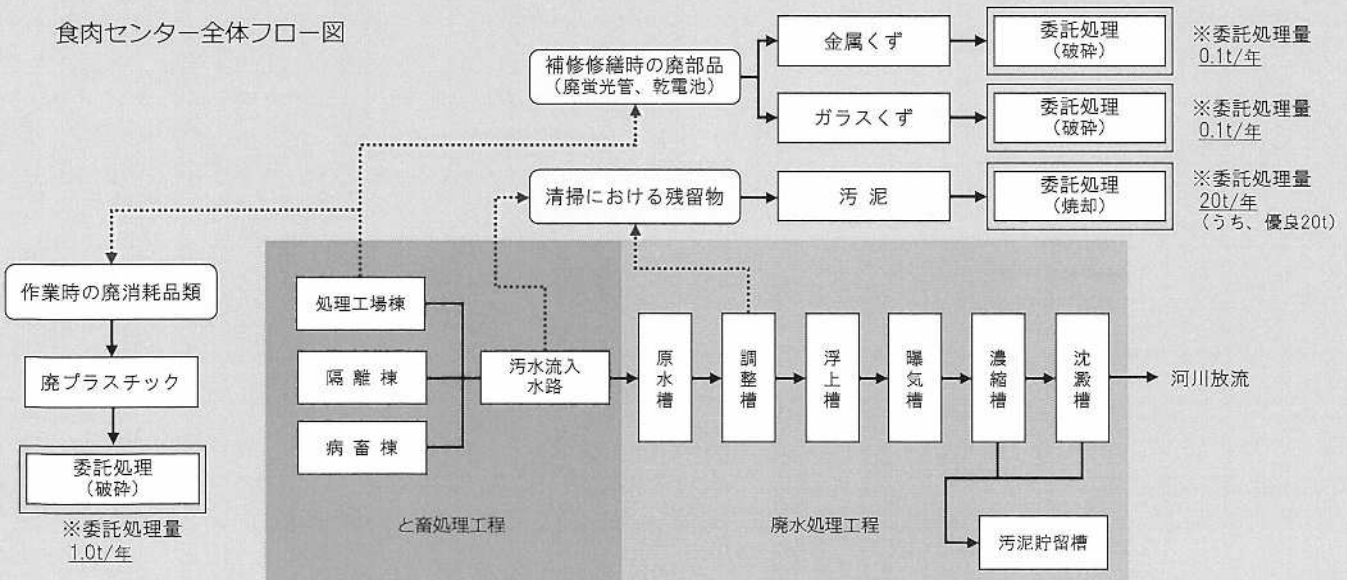
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

と畜処理、廃水処理工程フロー図

※記載数値は令和 5年度計画値



食肉センター全体フロー図



産業廃棄物処理計画書（集計用シート）

提出者の名称	公益財団法人 新潟ミートプラント 理事長 石井 悠也	提出者の住所	〒950-2125 新潟市西区中野小屋1631番地
事業場の名称	新潟市食肉センター	事業場の所在地	〒950-2125 新潟市西区中野小屋1631番地
内容年度	令和 5 年度（2023年度）		

（単位：トン）

廃棄物の種類	現状 ／ 計画	排出量 A	自社内での処理状況				委託先での処理状況				
			自己再生 利用量 B	うち熱 回収量 C	自己中間 処理 減量化量 D	自己最終 処分量 E	全処理 委託量 F	委託処理量のうち委託先毎の量			
								優良認定 処理業者 への処理 委託量 G	再生利用 業者への 処理 委託量 H	熱回収 認定業者 への処理 委託量 I	熱回収 認定業者 以外の熱 回収を行 う業者へ の処理 委託量 J
燃え殻	現状	18.65			16.11		2.54	2.54			
	計画	19.00			14.00		2.00	2.00			
汚泥	現状	25,764.42			24,670.32		1,094.10	174.41			
	計画	25,000.00			23,920.00		1,100.00	170.00			
廃プラスチック	現状	0.36					0.36				
	計画	0.40					1.00				
金属くず	現状	0.06					0.06				
	計画	0.10					0.10				
ガラスくず	現状	0.08					0.08				
	計画	0.10					0.10				
動物系固形不要物	現状	230.32			54.17		176.15				
	計画	230.00			60.00		180.00				
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
	現状										
	計画										
合計	現状	26,013.89			24,740.60		1,273.29	176.95			
	計画	25,249.60			23,994.00		1,283.20	172.00			